

『強制発情させられた魔法少女姉妹のためにケダモノ交尾で精液を捧げ尽くすお話』

■トラック1『プロローグ』

←以下トラック本文←

(シーン：怪物退治について来ようとする主人公に対し、カリムが怒っている状況)

【複数人の足音→停止してから最初のセリフへ】

(カリム、初期位置：正面やや右寄り。距離、向かい合って会話する位。
(ミリア、初期位置：正面やや左寄り。距離、向かい合って会話する位。)

カリム「だから……！」

いちいちついて来ようとすんなって言つてんのっ！」

1 ミリア「もう……カリム？ そんな言い方してはいけません。
彼は、私たちのことを心配してくれているのに……」

カリム「でも、こいつが来たって、
何にもできることなんてないじやん！
私たち二人がいれば十分でしょ？
だいたい……あんたが敵に狙われたら、どうするの？
絶対に足でまといになるでしょ？
ちゃんとそういうことも考えてるの？」

ミリア「……なるほど」

カリム「なつ、なに……？」

ミリア「カリムは……。彼のことが、心配なんですね？」

カリム「はあっ!? なにそれっ、意味わかんない……!
心配してるのは、こいつの方でしょ?

私は、全然、全く、これっぽっちも……」

ミリア「はいはい。ごめんなさいね?

この子、素直じゃないから……。

これでも、あなたのことを、ちゃんと大切に思っているんです。
どうか、嫌わないであげてください……」

カリム「もういい……いいからっ！ さっさと行くよ！

ほらあんたも！ 私たちの使う武器、準備しなさいよ！

メンテナンスは済んでるんでしううね！

……そう。ならないわ。さっさと渡しなさい」

ミリア「え？ ……なるほど。私たちが今日戦う怪物は、
妙な毒ガスを発することがあるから、
吸い込まないよう注意する必要があるんですね」

カリム「言われなくともわかってるしつ！
毒ガスなんか吐く前に倒してやる！ 行くよお姉ちゃん！」

ミリア「はいはい……。もう……カリムはせっかちですね。
では、ちょっと行ってきます。必ず、無事に戻ってきますから。
心配しないで待っててください」

【遠ざかっていく足音でフェードアウト】

（トラック1 END）

■トラック2『催淫毒ガスで発情した二人に、密着淫語囁き手コキで扱かれる』

(カリム、初期位置..正面。距離、向かい合つて会話する位。
(ミリア、初期位置..正面。距離、向かい合つて会話する位。)

【ふらつているような間隔の長い足音数歩】

(呼吸が荒い様子)

カリム 「はあ……♥ はあ……♥……なにあんた。
別に、来てなんて頼んでないのに……♥」

カリム 「戻りが遅いから、心配になつた……?
ふんつ……余計なお世話よつ。

……ふつ、ふうう……♥ はあ……♥ ふううう……♥」

カリム 「ちよつと、敵の毒ガスをくらつちやつただけ……つ♥

ふう……♥ 体が熱いけど、それ以外は、特に問題無いし……。

私は良いから、お姉ちゃんの様子を見てあげてよ……♥」

(カリムと同じく、呼吸が荒い様子)

ミリア 「はあ♥ はあ♥ ごめんなさい……♥

なんだか、体がとつても熱くて……おつ♥ ふううう……♥」

ミリア 「あれえ……? なんか……んつ? ふう……♥

ふううう……! 喉がつ……乾いてつ……。

すいまつ……せんつ……♥

ちよつと……飲ませてもらつても、いいですか?……?

あなたの唾液つ……んつ♥」

3

(ミリアの位置..正面、ゼロ距離へ。)

ミリア 「ちゅうーつ♥ ちゅちゅつ♥ ちゅーつ♥

……じゅるるるつ♥ じゅるつ♥ じゅぶつ♥ ふふう……♥

……ふうー♥ すいません♥ 全然我慢できませんでした♥
体がウズウズして、すぐにでもあなたの唾液を飲まないと、
気がおかしくなっちゃいそうだったんですね♥」

ミリア 「もう一回……ちゅつ♥ ちゅちゅちゅつ♥
ちゅぱうつ♥ ジュるつ……ああ♥
唇の端っこから、涎が垂れちゃつてますう……♥
もつたないので、舐めしゃぶりますね……♥」

(涎の垂れた口元→頬辺りを中心⁴に顔舐め)

ミリア 「べろくつ……じゅるつ♥ ……あれえ?

なんでこんなに、あなたの顔の皮膚が、甘いのでしょうか……?
もつと欲しくなつちゃいますう……♥ ……れろんつ♥ べろんつ♥
えろんつ♥ れろれろれろつ♥ んお美味しい♥
ほつペ甘つ……♥ ちゅるるるつ♥ ちゅうつ♥ んはつ♥ ふう♥
これえ……♥ 男の子の肌の角質の、バイキングですねえ♥
あむつ♥ ジュるるつ♥ もつとください♥ れろんつ♥
れろろろんつ♥ べろべろべろつ♥ あひつ♥
いつくらでもしやぶれちゃう……♥
ちゅつ♥ れろんつ♥ えくろんつ♥ ジュるるうつ♥」

4

(カリムの位置:正面やや右寄り。初期位置と同じ距離感)

(慌てて近づいて来て、様子がおかしいミリアに戸惑っている)
カリム 「ちよつとちよつとお姉ちゃん!? なにしてんの……!?

そんな風に、こいつの顔、舐めしゃぶりたりして……!」

ミリア 「ん? ……あへえ♥ カリムも舐めますかあ?

とつても甘いんですよ? 特にこの……お鼻の辺りとか♥ ね♥

ちゅくつ♥ れろつ♥ れろんつ♥ んくべろべろつ♥

じゅうくつ♥ ……はふう♥ あくんつ♥ はむつ♥ ふう♥

ちゅちゅぷつ♥ ふう♥ ……んふふつ♥

お鼻をあむあむされてえ……れろれろ舐められるの、どうですか?

私の甘酸っぱい唾の匂いで、いっぱいになつちゃいますよね♥

どんどん溺れてしまつていないので……んちゅつ♥ べろおく……♥

れろんつ♥ れろんつ♥ んふつ♥ ちゅく♥ れろれろれろつ♥

私の唾に包み込まれて、脳みそふわふわになつちゃえつ♥

ちゅくつ♥ 鼻の穴も……べろんつ♥ んほつ♥ れろくんつ♥

どんどんしゃぶつちやいますよお?

れろんつ♥ れろんつ♥ れろれろえろくつ♥」

カリム「やめてよお姉ちゃん！ こんなのおかしいでしょ！？」

あんたも……！
何嬉しそうな顔してんの！？
何とかしなさいよ！

『ミリアの位置…今はそれよりも』までカリムのいる左を向いて話す『この甘い甘い』からは前セリフの位置(正面ゼロ距離)に戻る

シリバ一落ち着いてくださいカリム

おそれくは、毒力不の影響ですか……。別に、何も困ることなんてありませんし、ちょっとの間このままでも良いのでは？

すいませんお待たせしちゃって……
今度は、唇にいっぱい吸い付いてあげますっ
じつとしててくださいね……？

（吸つて離してを繰り返しているイメージ）

ちゅ～～～つ……ぱつ♥ ちゅぱつ♥ ちゅちゅ～つ……ぱつ♥
ちゅつ、ぱつ♥ んふふ♥ 楽しいですね♥
お互いの唇が、溶けて混ざり合うみたいで……
ちゅ～～つ……ぱつ♥ ひひつ♥」

ミリア「…………あら？　密着していたら、なんだか、固いモノが……。」

カリム「ちよちよちよつ……お姉ちゃん!?」
何脱がせてつ……あつ……♥」

【チヤツクを下ろす音→ズボンを下ろす衣擦れ音】

(ミリアの位置：正面近め。下半身を見降ろしているので、少しだけ後ろに下がるイメージ)

ミリア「わあ…………♥ ちんぽ♥ 勃起ちんぽ♥ ちんぽですね♥
うわこれ…………♥ 血管が張り巡らされます♥
どくんどくんと脈を打つて……積極的スケベアピール全開♥
私の匂いを嗅いで、こんなことになってしまったのですか？
んふふつ♥ じゃあ……。
……私が責任を持つて、処理しないといけませんね♥」「

【くちゅつ…………つと、ミリアがペニスを掴む音】

(ミリアの位置：左耳ゼロ距離。無聲音寄りで囁き)
ミリア「んふふつ…………♥ んほ…………あつつう…………♥
あなたのおちんちん♥ 生のおちんちん♥
私のふわふわ手まんこで、捕まえちゃいました♥
激しく脈打つています…………♥ 唾の餒えた雌臭を嗅ぎながら、
ふにふにおっぱいを押し付けられたせいで、
赤ちゃんが欲しくなつてしまつたんですね♥ 大丈夫ですよ？
私がすぐに楽にしてあげます…………♥
ちょっとだけ、大人しくしててくださいね～…………♥」「

【ペニスをゆっくり目に扱く音開始。次の指定があるまで継続】

ミリア「しこつ♥ しこつ♥ しこお～♥ ……しこお♥
ふふつ♥ どうですか…………？
男の人の陰茎に触れるのは、もちろん初めてなのですが…………♥
雌の本能のおかげか、気持ち良いところが、
なんとなくわかっちゃうんです♥ ここ…………裏筋とか…………♥
あとは、亀頭の丘になつてる部分とか♥ あ～…………♥ ほらほら♥
ビクビクが止まりませんね♥ 全部バレバレです♥
密着している私のおっぱいが揺れるくらい、
震えちゃつてますからね♥ もつと素直に喘いでもいいのに♥
照れ屋さんですね…………♥」「

カリム「嘘つ……♥ お姉ちゃんの手が……こんな下品なブツを、
扱(しお)いちゃつてる……♥ 皮が、剥かれたり、元に戻つたり……。
……気持ち良さそう……♥」

カリム「って、私つ。何言つてるの？ 今のは、違うからつ。

目の前で、いきなり異性の性器を見せびらかされて、
脳みそが混乱してるだけ……！ 見なきや平氣だしつ！」

(ミリアの位置) カリムに向かつて話しかけるので声を耳からやや逸らす。)

ミリア「本当に見なくていいんですか？ もつたいないですねえ。

せつかく、エロエロのちんぽこが、むくむくに勃起しているのに……。

ヒクついてる鈴口や、そこから漏れる、美味しそうな我慢汁とか……♥

今を逃したら、二度と見られないかもせんよ？」

カリム「興味無い興味無い興味無い……！」

私は、こいつのおちんちんなんてつ……！」

【手コキ音を少し早くする。次の指定まで継続】

ミリア「んふふつ♥ カリム……聞いてください♥

おちんちんと、私のお手てまんこが奏でる、セックスのハーモニーです♥

煌びやかな交尾音でしょう？ 聞いてるだけで、

子宮がムズムズしてきて、クリトリスが勃起しませんか？

カリムは……私よりも、たくさん毒ガスを吸つてたはず……♥

本当はもう……限界なのでは？」

カリム「くつ……くううううつ！ ……ああもう！ わかつた！

ちんぽ見る！ ちんぽ見て扱(しお)くつ！

一回出させて、大人しい陰茎モードに戻せば、
私のムラムラも収まるはずだからつ！」

【手コキ音を元の速さに戻す。次の指定があるまで継続】

(カリムの位置…右耳ゼロ距離。無聲音寄りで囁き)

カリム「んおらつ……
これで満足でしょ？」

お姉ちゃんと私の手で作つた、自家製偽物おまんこ♡

お別れしてやるんだからっ……！」

(ミリアの位置…左耳ゼ口距離で囁き)

ミリア 「おっほつ♡ これで快感が二倍になっちゃいましたね♡

私たち姉妹の、エロエロサンンドイツチ手コキで、
びゅくびゅく射精しちゃいましょう♡」

カリム「この陰茎め……♥
絶対許さないんだからつ♥

んこ
ふこ
ふううう！
腹立つ……

なんでこんなにムニムニでやれいやれい——
うふふ及くジニハ——ミナガ、貢ゲテ

子種がどぴゅ～
つて跳ぶところを見たくてしよう

私を狂わせるちんぽを、絶対に許さないっ……！

「かせてやる。いやおんがくが強引なさい。」
いつまでこんなばつちい肉棒を握らせておくつもりなわけ？
雌想いの早漏びゅっぴゅ、早く見せなさい！」

【手口】キ音を早める。次の指定があるまで継続

ミリア 「もう……カリムつたら♡ そんなに大慌てで扱(しご)いたら、
合わせるのが大変なのに……♡ ……でも、あなたも、
いくいくしたくなってるんですね？」

だつたら、シコシコの速度を……上げさせていただきますっ♡

私たちの細い指が絡みついてきて、

おちんちんを根っこから気持ち良くなれちゃう感覚、
脳みそに刻み込んでください♡

おつ、♡ おつ、♡ って雄声で鳴きながら、射精しましょう♡
せり上がつてくる子種を、なんにも考えずに、
どぴゅ～♡ って噴射してください♡」

カリム「ああもう本当に出ちやうやツねこれ……♡
雌の本能が理解しちゃってるわ♡ ふう♡ ああくつそ
こんなちんぽの種跳ばしで興奮させられる♡
ムカつくからさつさとイケっ♡ イケっ♡」

【この部分は、二人同時に囁き】

ミリア「いくつ♡ イくいくつ♡ 精子出ちやうつ♡
びゅうって遺伝子跳ばしちゃうつ♡ 見てますからね?
あなたがかつこよく射精するところ♡ ほら出ますよ? 出る出る♡
さうんにういいちつ♡ イくいくうんつ♡」「

カリム「イケっ♡ イケイケっ♡ 精子出しちゃえっ♡
びゅうって子種まき散らせつ♡ 見ててやるわよ……♡
あなたが無様にイき散らかすところ♡ んおら出せ出せイケっ♡
さうんにういいちつ♡ アクメキメろつ……!」

【シコシコ音停止。このセリフ中は間隔を開けて断続的に射精の水音を】

【この部分は、二人同時に囁き】

ミリア「びゅつ♡ びゅう♡ ぶびびびい♡ ぶびびいっ♡ 出る出るつ♡
気持ち良いのいっぱい出るつ♡ びゅうびゅうびゅう♡
赤ちゃん汁びゅうつ♡ やうん♡ お手てまんこが孕んじやいますう♡
孕まされるう……♡ びゅつ♡ ……ぴゅくううつ♡」「

カリム「びゅつ♡ びゅう♡ んおらつ♡ 出せつ♡
いけつ♡ びゅうつ♡ びゅうつ♡ ぶびゅびゅんつ♡
どぶつ♡ ばっちいのいっぱい放(ひ)り出せつ……♡
どぴゅどぴゅつ♡ ぶびゅつ♡ どぶうつ……♡
どどどぴゅうつ……♡ びゅつ……びゅううつ♡」「

ミリア「はあ……はあ……♡……すごいですね♡ いっぱい出ちやいました♡
指に、たくさん……あなたの貴重な遺伝子ザーメンが……おつ♡
くつさつ♡ 香ばしい匂い♡ すんすんすんつ……♡
……ふあくくつせえく……♡ って、ごめんなさい♡
一生懸命放(ひ)り出してくれた精子に、臭いだなんて……♡」

カリム「本当にくっさいんだから、しようがないでしょ……♥
……すすううつ♥ おほくつせつ♥ ザーメンくっせ……♥
雌を小バカにしたような匂い……最悪♥
もつと扱(こ)き荒らしてやりたくなる……！」

(指に付いた精子を吸っている)

ミリア「あむつ……じゅるるつ……。ちゅるるううつ♥」

(カリムの位置…逆側の耳元(左耳)にいるミリアに向かって話しかけるので、
耳から少し顔をそらす。)

カリム「うわお姉ちゃん……。よくそんなの舐められるね……」

(ミリアの位置:左耳近め。)

ミリア「んふふつ……♥ じゅるつ♥ 我慢できなくて……♥
おいひい……♥ 臭いのに……甘い味がするう……♥
んつ……。……あれつ？」

カリム「どうしたの？ お姉ちゃん」

ミリア「なんだか……。ちょっとだけ、性欲が収まつたかもしません……」

カリム「本当……!?」

ミリア「ほんのちょっとり、なんですが……。

……もしかすると、あなたの精子が、私たちの体の毒を、
癒してくれる効果があるのかもしれません……！」

カリム「調べてみる必要がありそうね……。

……で、あんたはいつまで、そのスケベなちんぽを、
出しちゃなしにしておくつもりなわけ？ 早くしまいなさいよ。
じゃないと、私のムラムラが暴走して、
犯し散らかしちゃうかもしれないわよ？
……そう。良い子ね。さつきと戻りましょう」

【映画でフューチャー】

(トライク2 END)

■トラック3『二人に挟まれながらのむぎゅむぎゅフェロモン漬けパイズリ』

(シーン:拠点に戻り、精液が毒に有効であるという話をしているところ)

(カリム、初期位置..正面やや左寄り。距離向かい合って会話する位。
(ミリア、初期位置..正面やや右寄り。距離向かい合って会話する位。)

カリム「じゃあなに? あなたの精液が、毒に有効ってことなの?」

ミリア「さっきみたいに飲んだり……。

ボディクリームのように、体に塗り込んだりすればいいのですね?」

カリム「最悪……。あんなに雄臭いネバネバ体液に、

また触れないといけないとか……。でもまあ、やるしかないわよね

こんなに発情してたら、怪物と戦えないもの。

ほら……さっさとちんぽ出しなさい。

またさっきみたいに、びゅこびゅこ搾精してあげるわ」

ミリア「え……? ……一人で出して、持つてくるから、待っていてほしい?
……どうしてですか? 先ほどの私たちの手まんこ捌きに、
何か不満があつたのでしょうか。それでしたら、
遠慮なくおっしゃってください。すぐに改善して、
あなたが一番気持ち良いと思えるような方法で、
射精させてあげますからね……♡」

(カリムの位置..正面近め、左寄りへ。壁際に追い込み股間を触りながら、
見降ろし気味に会話している。)

カリム「こら……逃げるんじゃないわよ♡

さっきもらつた精液だけじゃ、もう効果が切れ始めてんの……♡

ここで無理矢理ちんぽ扱(こ)き散らかされたくなかったら、
私たちに理性があるうちに、言うこと聞いときなさい♡

ほら……♡ 勃起してるじゃない♡ あなたの精液びゅくびゅく棒♡

本当は、バチクソにちんぽ扱(じだ)き倒されたいんでしょ?
性器に素直になりなつて……♡」

(ミリアの位置：正面近め、右寄りへ。壁際に追い込み股間を触りながら、見降ろし気味に会話している。)

(『ゞくっ♡』は、興奮して生唾を飲み込んでいる)

ミリア 「精液は、新鮮な方が効き目があると思います♡
トイレで射精して、ここまで持つて来る間に、
劣化してしまつたらもつたいたいです♡ 今ここで、
生の搾り立てぷりぷりザーメンを……ゞくっ♡ んふふ♡
たつぷりとまき散らして、私たちを精液まみれにしてくれたら、
しばらくは冷静さを取り戻すことができるでしょう……♡」

カリム 「……まだちんぽ出さないのこいつ。なんかムカつくわね♡
私もお姉ちゃんも、雄が泣いて飛びつくような、
エチシコムラムラ誘発ボディ、してんのに……♡
ちゃんと嗅いでる？ 私たちの体中から分泌されてる、
発情雌フェロモン臭……♡」

ミリア 「女の子は、ムラムラすると、とびつきり甘酸っぱい香りを
まき散らしてしまうんです……♡ 目を付けた雄を、
決して逃がさないように♡ 濃ゆういフェロモンでマーキングして、
金玉をイラつかせるんですよ？」

カリム 「自分でも、ちょっと雌臭いかもって思うくらい、
ぶんぶん漂わせてんのに、あんたは平気なわけ……？
……まあいいや。あんたがそうやって、ちんぽを出し惜しみするなら、
無理矢理発情させてやる……♡」

【腋を露出するため、ゞくっそと布の擦れる音】

(『……すんすん♡』は、自分の腋の匂いを嗅いでいる)

カリム 「んおらつ……♡ 見なさいよ♡ 怪物との戦闘で汗をかいて、
むれつむれに仕上がった、私の腋まんこ……♡
蒸れすぎて、フェロモンが気化して、湯気みたいになつてゐるでしょ？
これもきっと毒の作用よ……♡ ……すんすん♡ んおくつさ♡

カリム「くっせ～♥ 雌臭(めすくさ)すぎて、半径五メートル以内の雄、全部ムラムラさせちゃうよ、うな、とんでもない匂いになっちゃってる……♥」

ミリア「見てください♥ 私も露出したました……♥

……カリムよりも、甘さのしつこい香りがするでしょう？ 体型によって、フェロモンの匂いは変わるんです♥」

カリム「私は……レモンみたいな甘酸っぱい匂いに、

石鹼の爽やかな香りが混ざった、サラっとした蒸れ腋汗で……」

ミリア「私のは……。んふふつ♥ ケーキみたいなしつこい甘さと、

ミルクの芳醇な深みの混ざった、高カロリーフェロモン汗です♥」

カリム「あんたの鼻の穴……同時に塞いで、

今度こそ、脳みそおちんぽ発情男に変えてあげる♥」

ミリア「ごめんなさいね♥

きつたないべちゃべちゃの腋汗むわむわおまんこですが、我慢してください♥」

カリム&ミリア「「せ～の～」」

【べちつ……つと、鼻に二人の腋が付着する肌の音】

カリム「うわつ……すつごい沈んじやつてる♥

あんたの鼻、私たちの腋まんこで、閉じ込めちゃつた♥
もう嗅ぐしかないよこれ♥ ほらほらつ♥ グリグリ押し付けて、
肺の中を腋フェロモンだらけにしてやる……つ♥」

ミリア「くんかくんか♥ すんすんすんつ♥ そそう……上手ですよ
嗅がないと呼吸が出来ませんからね♥ 酸っぱい腋汗でも、
我慢して吸引してください♥ くんくん♥ すうすう♥
くさくさ女フェロモンで、脳みそを溶かしましょ～♥」

カリム「逃げ場なんてないわよ？ あんたがおちんぽを隠して、ムラムラしてませんみたいな顔しやがったのが悪いの♡
徹底的にフェロモンで燻してあげる♡ ほら……♡
べちゃべちゃの腋まんこで、鼻毛に浸透するくらい腋汗嗅がせてやるわよっ♡ おらっ♡ おらあっ♡」

ミリア「おかしいですね……。普通の雄なら、これでイチコロのはずですが……。
普段から私たち二人と過ごしすぎているせいで、フェロモン慣れしているんでしょうか？」

カリム「理性の強い雄は嫌いよ……♡ もうあつたまきた♡ 子宮に来た♡ 普段自分たちにかけてる『強化魔法』を、あんたの嗅覚にかけてやるわ♡」

ミリア「わあ……♡ そんなことされたら、鼻がもげちゃうかもしれませんね♡
でも、いつまでもぷにぷに腋まんこに潰されたままじゃ、可哀想ですから♡ もういっそひと思いに、一発で仕留めてあげましょう♡」

カリム「くらいなさい……ほらっ！」

【ボオン、のような魔法をかけているとわかるようなSE】

カリム「あはははっ♡ つうくんってクるでしょ♡ 天然のわさびを嗅いだ時みたいな、鼻の奥に響く、鋭い匂い……♡
脳みそがグラついて、頭の中が女の子でいっぱいになる、極悪フェロモン臭に変身く♡」

ミリア「あらあら♡ ブルブル全身が痙攣して、大変なことになっています♡
フェロモン自体は変わっていなくても、嗅覚が何倍にも強化されたせいで、相当厳しそうですね……♡」

カリム「この状態で……おりやつ♥ おりやおりやつ♥

腋まんこ鼻穴閉じ込め♥ ぶわあしんと広がる甘酸っぱい雌臭♥
蒸れ蒸れで汗まみれの腋♥ 興奮しなさいよ……♥

私たちを孕ませたいという欲望を、

金玉の中でじっくりコトコト煮詰めなさい♥」

ミリア「あ……♥ ふふつ♥ やつと出しましたね♥
おちんちん♥ もう勃起しそぎて、

パンツの中じゃ苦しすぎたのでしょうか♥」

カリム「ふんつ……♥ やるじゃない♥ ちんぽを自分で出せる雄は偉いわよ♥
ご褒美に……。私たちのおっぱいフェロモンも嗅がせてあげるわ♥」

ミリア「脇がこれだけ蒸れていますから♥ おっぱいもかなりムワムワです♥
暑苦しくって、早く脱ぎたいと思つていたんですよ♥」

【おっぱいを出す、シユルつとした布の擦れる音】

16

カリム「ほら……ちゃんと見なさい♥ 私のエロおっぱい♥

乳首が、ツンツと上を向いてる、釣鐘型の健康的乳房よ♥

……あんたみたいな男に見せるのは癪だけど、

フルチン勃起を頑張つしてくれたから、仕方なく解放してやつたわ♥」

ミリア「そしてそして……私のおっぱいは……じゃじゃん♥

カリムほど綺麗ではありませんが、その分たぶたぶに実った、

エロエロ長乳です♥ 丸い乳輪と、太い乳首が特徴的な、

赤ちゃんに優しい設計のおっぱいに仕上げておきました……♥」

カリム「四つのおっぱいで、あんたの顔面を潰してあげる……♥

ご褒美おっぱい掛け布団で、乳汗べたべたの雄顔になりなさい♥」

ミリア「いきますよ～？」

カリム&ミリア「「せ～のつ♥」」

ミリア 「むにゅむにゅむにゅうう♡ 沈め沈め♡」

雄顔沈没しろ♡ んつふふつ♡ ちょっと乱暴ですか?
でも、乳肉は余るくらいでちょうどいいですから♡
好きなだけ溺れてください♡」

カリム 「柔らか乳房のおっぱい海原、どうなのよ……♡

感想は？ 腋汗よりも、うんと甘くて、脳みそが
じゅわじゅわって溶けるような香り……するでしょ？

もつと遠慮なく嗅ぎなさいよ♡ んつ♡ そう……♡

クンクン嗅いで、もつと濃ゆい精液を溜め込んでもらわないと……♡」

ミリア 「顔面乳汗まみれで、あついですよね……♡

なんでこんなに甘い香りがするのか、不思議でたまらないって
表情します♡ まあおっぱいに埋もれて見えてないので、
想像なんすけどね……♡」

カリム 「答え合わせしてあげるわ……♡

……うわあ♡ 前髪べつたべたの、トロけきった表情……♡
……てか、くっさ♡ 顔中から、私たちの乳汗の匂いが、
ムンムン漂ってくる♡ お姉ちゃんのおっぱい、本当に雌臭い……♡
フェロモンの濃度、どうなつてんの……？」

ミリア 「ごめんなさい♡ 若干ムラムラが抑えきれなくなつて
きちゃつたみたいですね♡ フェロモンに滲み出ちゃつてますね♡
……はあ♡ おっぱいで犯す♡ あつ、間違えました♡
うつかり本音が……♡ ごほんつ♡ ……体の毒素を消すために、
あなたの精液を、おっぱいにたくさん塗(まぶ)してくれませんか？
パイズリで、びゅこびゅこ射精させてあげますから♡ ね？」

カリム 「良かつたじゃない♡

お姉ちゃんの」カップむちむちバカデカ異常おっぱいで、
ちんぽこ磨きしてもらえるんだって♡ ジやあ私は……。

あなたを支えててあげるわ♡

おっぱいまくらを提供してあげるから、
床に座つて、私にもたれなさい♡」

【『んっしょっ♡』に合わせてペニスを挿む音】

(ミリアの位置：正面。主人公の股の間でパイズリ。声はリアルな遠さじやなく、近めで大丈夫です。)

ミリア「では♡ ムラムラが暴走する前に、早速おちんぽを失礼して……んっしょっ♡ はい♡ おちんちんの入場が完了しました♡ これからゆっくり扱いていきますからね♡」

(カリムの位置：主人公を胸にもたれさせている、やや上から左の耳裏へ語りかけるようなイメージ。)

カリム「ふんっ♡ どうよ♡ お姉ちゃんのムチムチエロでかおっぱいの弾力は♡ おちんぽトロけちゃいそうでしょ？ あんたの雄の悦び……♡ 私に密着してたから、プルプル震えてるのが丸わかりよ♡ 私たちの毒を消すために、ぶびぶびザーメン健康薬を噴き出しなさい♡」

【パイズリ音開始。次の指定があるまで継続】

ミリア「ぱんっ♡ ぱんっ♡ ぱんっ♡ ぱあんっ♡ んふふっ♡ おっぱいパコパコセックス♡ 気持ち良いですか？ ふわふわのおっぱいに、むぎゅ～♡ つてされながら、おちんちんシコシコ磨き♡ 連続パイコキピストン♡ 夢中になって感じちゃってますね♡」

カリム「雄のいちばん弱い肉棒を、ごしごし♡ しこしこ♡ お姉ちゃんのJカップ上半身ドスケベおまんこで、パコリ散らかされちゃってるじゃない♡ ちゃんと、乳肌がペニスを擦る感触とか、乳圧で尿道が狭くなる快感とか、全部しつかり味わいながらイキなさいよ？ あと、あんたを支えてあげてるおっぱいまくらのことも忘れちゃダメなんだから♡ 乳汗ミルクくっさいエロおっぱいに溺れながら射精したら、知能指数がマイナスになるくらい気持ち良いわよ？ ほらもつと汚い声出しなさい♡ おつ♡ おつ♡ つて喘ぎながらちんぽ固くすんのよつ♡」

【『えいっ♡』から、パイズリ音を早めに。】

ミリア 「あれえ？ 尿道がヒクついてきちゃいましたね♡
フェロモンで、とっくに限界まで追い込まれていたみたいですね♡
それでは……えいっ♡ おりやつ♡
トドメの全力乳締め杭打ちピストンで、
金玉ザーメンを搾り尽くしてあげます♡」

カリム 「イケっ♡ イケっ♡ ふわふわおっぱいまみれになりながらイケっ♡
うどんみたいに長くてぶつとい固形ザーメン、ひり出しちゃえっ♡」

ミリア 「いくいくしましようね♡ おんっ♡ おんっ♡ って
ひたすらに喘ぎながら、おちんぽびゅくびゅくザーメンおしつこの
時間ですよ♡ 出てこいっ♡ 出てこいっ♡
ぱんぱんぱんぱんいくつ♡ いくつ♡
あつ♡ ああ～つ出る出るう～つ♡」

(☆)は最後に別途記載【射精音。『どぱ～っ♡』の前まで。以降は(☆)に合わせて
【ズリ音停止。(☆)の位置で、射精音に合わせて+乳房を叩き付ける音】

19
ミリア 「びゅびゅ～っ♡ どぶどぶ～っ♡ びゅぶう～っ♡
びゅるるんびゅるるんっ♡ どぱ～っ♡ すごい量……♡
あつ おっぱいの中で、とくんとくんっ♡ って脈動しながら、
一生懸命……精液のおしつこを、しいしいしてますね♡
えいっ まだまだこき出しますよ？ そりやつ♡
にゅつとんっ♡ 大きな乳房を持ち上げて……たぽんっ♡
垂直落下♡ おちんちんびゅ～っ♡ くらえっ……♡
もつと♡ もつと♡ ふんっ♡ ふう～んっ♡」

【次のセリフの背後で控えめに、断続的に、射精音と乳房を叩き付ける音】

カリム 「うつわあ～♡ お姉ちゃんの、追いうち種搾り乳コキ、
エグすぎるわね……♡ 背骨まで痙攣するくらい、
気持ち良いんじゃないの……？ ……あ～あ。ぐつたりしちゃつた♡
最初からちんぽを素直に出しておけば、
こんな酷い搾精はされなかつたかもしれないのに……♡」

ミリア 「ふううつ♡ 搾った搾った……♡

気持ち良かつたですか？ って、

あれ……？ 目の焦点が合つてしませんね……。

少々やりすぎてしまつたでしようか……♡」

カリム 「フェロモンやられ状態の雄には、厳しすぎたかもね……」

ミリア 「んふふつ♡ カリムに分ける分まで、

思いつきり搾り取ろうと思ったら、

張り切りすぎちゃいましたね♡ 「ごめんなさい♡

でも、これだけあれば、しばらくは発情を抑えられると思います♡

ありがとうございました……♡」

(トラック3 END)

■トラック4『バレたら終了！屋間の商店街で透明化露出オナニー』

（カリム、初期位置：正面やや右寄り。距離向かい合って会話する位。
（ミリア、初期位置：正面やや左寄り。距離向かい合って会話する位。）

（シーン：刺激的なプレイで、毒が弱まると判明したので、商店街にやつてきた三人）

【商店街のガヤガヤ音（トラック全体を通してではなく、最初だけ大丈夫です）】

カリム「はあ～。とうとう来ちゃったわね。商店街。

……本当に見えてないのかしら」

ミリア「大丈夫ですよカリム。もし、誰かに見えていたら……
もつと大騒ぎになつていてるでしようから」

カリム「それもそうよね。こんなデカ乳ぶら下げる女の子が、
乳首丸出しども、平気な顔して歩いてるんだから」

ミリア「カリムだって……。おっぱいも、おまんこも丸出しじゃないですか♡
お互い様ですよ♡」

カリム「刺激的なプレイ……。もつと言えば、変態プレイが、
毒の効果を弱めるのに有効だなんて、信じられない話だけど、
本当なんだから仕方ないわよね。そうでもなきや、こんな……。
ちつ、乳首と、おまんこの周りだけ露出した、
変態変身スースツなんて、着ないもの……♡」

ミリア「はあ……はあ……♡ 興奮します……♡

普段は、怪物と戦うために身に着けている変身スースツを、
こんな下品なプレイのために、
わざわざ改造してしまっているだなんて……♡」

カリム「もし、透明化してなかつたらと思うと、ゾッとするわ……♡
でもまあ、この背徳感のおかげで、ムラムラが促進されて、
毒に効いてる感じもするわよ♡」

ミリア 「ですが、気を付けなければいけません♥
透明化しているとはいえ、声はそのまま、
聞こえてしまうわけですから……♥ ……んつ♥ ふう♥
このように、スケベな声を出してしまえば、
バレてしまう可能性もあります♥」

カリム 「んあうつ♥ くつそ……♥

乳首に風が当たるだけで、声が……♥
あなたの道具って、いつも不完全よねつ♥
なんで声も聞こえないようにできないのよつ♥
やつ♥ ちよつと……♥ 無理い……♥
一回乳首を意識したら、んつ♥ やんつ……♥
敏感になり始めてるう……♥」

ミリア 「あんつ♥ やはんつ♥ ふう……♥ すいません……私も……♥

あおつ♥ おまんこから、愛液が滴つてますう……♥

このままでは……んほつ♥ マズいのでえ……♥

あなたを抱き締めて、性欲を誤魔化してもいいですか？」

カリム 「うつ♥ ふう……♥ ふう……♥

お姉ちゃん、またそんなつ……んあつ♥ 誘うようなことつ……♥

性欲に、支配されすぎつ……♥ あふんつ♥ ふう……♥」

(ミリアの位置：左耳近め。主人公の左腕に抱き着き誘惑するように囁く。
ゼロ距離よりは少し遠めでお願いします。)

【腕に抱きついた時の軽い衣擦れ音をお願いします】

ミリア 「はあ……♥ はあ……♥……んつ♥ ふう♥

少しだけ、ホツとします……♥ 男の人の腕って……肉質が固くて……♥

ギュッと抱き締めていると、心が落ち着くんです♥

あつ♥ んつ♥ でもお……♥ 子宮は逆に……あふつ♥ ふうつ♥
子種が近くにあることを察して……♥

ムラムラセンサーが、過剰反応してしまいますう……♥」

カリム「本当にっ♡ んっ♡ あうっ♡ みつともないお姉ちゃんっ……♡
……えっ？ わっ、私は平気よっ♡
あんたなんかに頼らなくたって、んっ♡ 声を我慢して……んほっ♡
耐え切つてみせるんだからあ……♡」

ミリア「もお……♡ カリムったら、また無茶してる……♡
本当は、あなたのこと、すっ」

カリム「待つて待つてっ！ お姉ちゃん何を言おうとつ……あっ。
しつ、しまつた。大きな声が……あんっ♡ マズいわ♡
みんなこっちを見てる♡ おっ♡ ふううつ♡

今喘いだらっ、絶対ダメなのにいつ♡

出しちゃいけないとと思うと、余計に乳首が敏感につ……♡
はあっ♡ はあっ♡ もおっ……！」

（カリムの位置…右耳近め。主人公の右腕に抱き着き甘い声で囁く。
ゼロ距離よりは少し遠目でお願いします。）

カリム「これはっ、仕方なくつ……んっ♡ なんだからあ♡ おっ♡
別に、あんたのことなんて、何とも思つてないしつ！ ふあっ♡
お、ぐ……♡ ……ちょっとヤバいかもつ……♡
悪いけど、強めに抱き締めさせてもらうわ……♡
あふんっ♡ 声、漏れちゃう……♡ やあ……♡」

ミリア「ふう……♡ ふう……♡ ……ああマズいですこれ♡
あなたの腕に、乳首が擦れてつ……おっ♡
チクオナみたいになつてしまつていますうつ♡ あうんっ♡
おっ♡ おほっ♡ どうしましよう……♡
これでは、結局声を抑えることができんっ♡」

カリム「全部あんたのせいよ……♡ あっ♡ 私たちの……あおんっ♡
露出びくびく乳首い♡ 気持ち良くするなんてつ……♡
おほっ♡ 重罪だわつ……♡ この毒が抜けたらつ……♡
絶対犯し狂つてやるつ……♡ ちんぽしばき倒して、
私をムラつかせたことを、後悔させてやるんだからつ……♡」

ミリア 「ああもう無理ですぅ♥ はあ♥ はあ♥

声、どうしても出ちゃいますぅつ♥ あの……♥

あなたのお耳を、お借りしてもいいですか……？

耳穴に向かって声を出せば、あなた以外には

聞こえないはずですから……♥ あうつ♥ すいませんっ♥

許可を得ている余裕がありませんっ♥

耳まんこ……失礼しますうつ♥」「

(ミリアの位置:左耳ゼロ距離へ、囁き)

ミリア 「あはあうつ♥ ごめんなさい……♥ おほつ♥ ふううつ♥
はあ♥ はあ♥ んつ♥ 乳首もお……♥ クリトリスもお……♥
そこだけ露出しているせいです、あふんつ♥ 快感が集中して……
あひよつ♥ ほおお……つ♥ 感じずにはいられませんっ……♥
背徳感が、脳をダメにしてしまいますう……♥ おつ♥
おおうおつ♥ 声つ、出るう……♥ 出るう……♥」

(カリムの位置:右耳ゼロ距離、囁き)

カリム 「うう……♥ 私も限界みたいだわ……♥

あんたの耳まんこ……おほつ♥ 悪いけど、借りるわよ……♥
んつ♥ んつ♥ はひんつ♥ 乳首い……♥ 乳首擦れるう♥
おほつ♥ ダメえ……勝手に体が動いちゃうつ♥
性に目覚めたての女の子みたいに♥
あんたの腕に乳首擦り付けオナニーしてつ♥ あふんつ♥
感じちゃってるじゃないつ……♥ どうしてくれんのよつ……♥
おつほつ♥ おほおうつ♥」

24

ミリア 「はあ♥ もおつ♥ もおお……♥
なんでこんなにつ♥ あひんつ♥
雄腕擦り付けチクオナは、気持ち良いんでしょうかつ……♥
うひよつ♥ ほおおつ！ あつ、♥ ごめんなさいつ♥
大きな雌声が……♥ あなたの耳に障つたら大変ですね♥
おつ、♥ 無理いつ、♥ 我慢無理いつ♥
下品な雌声出るつ♥ うほつ♥ うほほほつ♥」「

カリム「あ～ぐくつそつ♡ ……気持ち良い♡ なんでこんなつ♡

おつ♡ んおつ♡ ほつ♡ ほつ♡ ふううう♡ ほつ♡ ほつ♡
ふううう……！ 乳首こすこすんのつ、気持ち良いのよお……！

あうつ ♡ まんこでするオナニーの、三億倍感じるじゃないつ……
ふひんつ♡ ふつ♡ ふうつ♡ これも毒の作用なのかしらつ……
だつたらもつと擦り付けて、あほんつ♡ 早く解消しないと……つ♡
おひよつ♡ おううつ……♡ おううつ♡

ミリア「あつ……んふつ♡ 股間が膨らんでいますねつ……はひよんつ♡
ふう♡ ふうつ♡ こんなエチ雌に、両腕を抱き締められて……
プニプニの生乳首を押し付けられたらつ♡ おつ♡

興奮するのが当然ですつ♡ あつ♡ あうんつ♡ おほお……♡
雄の自然現象ですからつ♡ 気になさらずつ……
あひよつ♡ ふうつ……♡」

カリム「おつ ♡ ずつ、ズルいわよ……♡ 私たちばかり、喘いで……♡
あんたもつ♡ おちんぽシコシコ喘ぎつ♡ しなさいつ……♡

透明化して……♡ おほつ♡ ふうつ♡ オナニーすんのよつ……♡
ミリア「それは名案ですつ……♡ はひよんつ♡ ふふうつ♡ ふうつ♡
一緒にオナニーをすればつ……おほつ♡ きっと、毒を弱める効果も、
強まるはずですからつ……あつ ♡
オナ合わせ……しましようつ……？」

【透明化する道具を使用したことがわかるようなS】

カリム「ふんつ……♡ これであんたも、シコリ放題よ……♡

声を抑えながら……あひんつ♡ ちんぽこ磨きしなさいつ……♡」

【ズボンを下ろす音の後、手コキ音開始】

ミリア「ふにつぶにのおっぱいつ♡ もつと押し付けてあげますからつ……
おほんつ♡ むちむちでフニフニの弾力を、たっぷりと味わいながら、
その立派なガチ勃起マラを、シコシコしてくださいね……♡」

カリム「おつ♥ おお～おつ♥ デカちゃんぽ見たらつ♥ はふつ♥
ふうつ♥ 子宮が疼いてつ♥ あうつ♥
乳首もつと敏感になつちやつてるうつ♥ あひよつ♥ おほつ♥
ほおおつ……♥ ほうつ♥ ほおつ♥ はあ♥
はあ……♥ んつ♥ はあ～……♥」

ミリア「あつ♥ あおつ♥ おゞつ♥ ……おほつ♥ ほほつ♥
あなたはつ……自分のちんぽを扱(しご)いて……♥ 私たちは……♥
あなたの腕ちんぽを扱(しご)きますつ♥
三本の陰茎で感じながら、どぴゅどぴゅねばねばミルクを、
思いつきり射精してくださいつ……おつゞ♥ おほお♥
おんつ♥ おんつゞ♥」

カリム「んあつ♥ おゞつ♥ 乳首つ♥ すりつ♥ すりいつ♥
おつゞ♥ イきそうつ♥ あんたもつ♥ 尿道が……あひよつ♥
ヒクついてんじやないの？ ほらああつ♥ おつゞ♥
一緒にイきなさいつ♥ 発情雌に、腕ちんぽ勝手に使われながら、
種汁びゅくびゅく棒を震わせて、
コツテリザーメンちんぽこジュースを、
まき散らすのつ……おつ♥ おひよつ♥ ほおおつ♥」

ミリア「んつ♥ んつ♥ んつ♥ はあつ♥ おつゞ♥ もう出ますね？
私もイきそうですつ♥ 乳首ちんぽが射精しそうですつ♥
両乳首のおちんちんがつ♥ あひやつ♥ ふううつ♥
いくつ……いくつ♥」

カリム「私もおつゞ……おつゞ♥ クるクるクるつ♥ 乳首クるつ♥
そこまでキてるつ♥ おほつ♥ タイミング合わせなさいよつ？
同時イきすんのつ♥ んおああつ♥
おつゞ♥ おつゞ♥ おつゞ！ イグイグつ♥ おひよつ♥」

カリム&ミリア「もういくつ♥ イつきゅつ♥ おほつ♥……おおおおおお～！」

【このセリフは二人同時再生】
【射精音】

カリム「おつ ♪ ♪ おお、ゞいくつ ♪ イくイクイつてるつ ♪

おほつ……♥ これ快感強つ♥ おひよつ♥ んやつべえくつ♥
はあやばい♥ やばいイぐつ、！ おつ、……おお、ゞ……？

んゞ……♥ ん、ゞつ、……♥ ……はあつ♥ はあつ♥
ちんぽよりイつた……♥ んうほつ♥ ほほお……

……はあ♥ はあゞゞ♥」

ミリア「んあ、ゞイつたつ♥ 乳首……イつ……たつ♥ おふつ♥
ふううつ♥ もつといくつ♥ ごしごししていくつ♥
いつきゅつ♥ お、ゞつ♥ ちんぽもイつてくださいつ♥
どぴゅどぴゅつ♥ ふんつ♥ つてつ♥ ふんつて息みながらつ♥
おつ……出してえつ……♥ んほつ♥ ほお……♥
おつ、……おお……♥ ……おおゞつ♥」

カリム「もお最悪うつ……♥ おおつ……♥

乳首でこんなにいくとかつ……あつ、♪ 経験つ、無いしいつ……
ほつ……♥ んおつ……♥ まだ、乳首の芯が、痺れてつ……
おつ、♪ 快感の波が、全然引かないじやないつ……♥
あんたのせいよつ……♥ おうつ……うううつ……♥」

27

ミリア「はあ♥ はあ♥ おつ、ゞ……はあ♥ ……ふううつ♥
これは……相当マズいですね♥ 癒付いてしまいそうですつ♥
誰かにバレるかもしれないというスリルの中、

乳首ちんぽとおまんこを露出して、みんなでするオナニー……
あつ♥ あはんつ♥ ふうつ……♥ ……ねえ。

もう一発、しませんかつ……？

連續でした方が……毒にも効果があると思うんですけど……♥」

カリム「しようがないわねつ……♥ んつ♥ あふつ♥

……お姉ちゃんがつ♥ どうしてもって言うなら……
してあげるつ……おほつ♥ わつ、よお……♥」

ミリア 「あなたはどうですか……？ ……んふふつ
ありがとうございます♡ では、腕chinぽ、再び失礼してつ……
……おつゞゞ おゝおつ♡ おおゝ……♡」

カリム 「お姉ちゃんズルいっ♡ 私もつ……おほつ♡
ほうほおつ♡ ほほおつ♡ ほおゝ……♡ ほゝ……♡」

【最後の喘ぎ声でフェードアウト】

(ナラック + END)

■トラック5『金玉ブースト&強制回復魔法で連続大量中出し交尾』

(カリム、初期位置：正面やや左寄り。距離向かい合って会話する位。
(ミリア、初期位置：正面やや右寄り。距離向かい合って会話する位。
(シーン：擦精の時間になつたので、主人公の部屋に一人がやつてくる)

【ドアをノックする音→少し置いてドアを開ける音】

カリム 「入るわよ。……なにあんた。ぐつたりしちやつて。ムカつくわね。
ボーッとしてないでいいから、さっさとちんぽ出しなさいよ……♡
こつちはムラムラのせいで、辛い想いをしてるんだから、
あんたに拒否権なんてないわ」

(ミリアの位置：『……こうして』から、主人公の右側に腰掛けて
右耳近めで会話する。)

【『……こうして』の前にベッドに腰掛ける軋む音】

ミリア 「もう……。ダメですよカリム。

男性は、そんな風に高圧的に迫られても、嬉しくありません。
……こうして、優しく寄り添うみたいに、
じっくりと気持ちを高ぶらせてあげるのが、
正しい接し方です♡ ……ね？」

(カリムの位置：『……ほら』からは、からは、主人公の左側に腰掛けて、
左耳近めで会話する。)

【『……ほら』の前にベッドに腰掛ける軋む音】

カリム 「わっ、わかってるわよ。

……ほら。これで良いんでしょ？

柔らかいおっぱいをムニムニ押し当てられて、こんな風に……。
……はあ～っ♡ つて♡ 甘くて生温かい吐息をかけられたら、
すぐに交尾したくなるんじやないの？」

【『脱がせますね』の後にズボンを脱がせる音】

ミリア 「んふふ♡ ズボン……脱がせますね♡
……あら。勃起はしていますが……。

なんだか、本当に疲れ気味のようです。

これは少々、細工が必要かもしませんね……♡」

カリム 「細工？ お姉ちゃん、何か作戦があるの？」

ミリア 「ええ♡ 前々から思っていたことなのですが……。
私の得意な回復魔法で、金玉を回復させてあげつつ、
カリムの得意な強化魔法で、射精力を高めてあげれば、
より質が高く、毒への効き目も持続しやすい、濃厚ぷりぷりザーメンを、
吐き出せるようになるのではないでしようか……♡」

カリム 「なるほど。それは良い作戦ね♡

あんたも、ぶつとい精液をちんぽ穴からひり出す方が、
気持ち良いでしょ？ ……ふんっ♡ 決まりね♡
じゃあ早速、魔法をかけてあげるわ♡」

(次のセリフは右耳ゼロ距離で囁き)

ミリア 「私は、金玉回復魔法を……♡」

【魔法をかけたことがわかるようなSE】

(次のセリフは左耳ゼロ距離で囁き)

カリム 「私は、射精力強化魔法を、かけてあげる……♡」

【魔法をかけたことがわかるようなSE】

(『じゅるっ♡』は、舌舐めずり)

ミリア 「あらあら♡ おちんぽの勃起が、激しくなりましたね♡
くたびれていた金玉も、皮にハリが戻って、
美味しそうです……じゅるっ♡」

カリム「ほんっと、雄ってチヨロい性別よね♡

女の子二人におっぱいを押し当てられて、スケベな魔法をかけられれば、それだけで交尾の準備が完了するんだもの♡

私は雌で良かったわ……。

こんな恥ずかしい性器をぶら下げて過ごすとか、恥にもほどがあるじゃない♡」

ミリア「なんて言っていますが……。カリムは普段、あなたのおちんぽを、よく褒めていますよ♡ ちんぽちんぽと連呼しながら、

毎日のように膣を指でほじくり、

深イキオナニーを決め込んでいるんです♡」

カリム「はっ、はあっ!? なんで知つてつ……じゃなかつた。

そんなの嘘よ！ お姉ちゃんの悪い冗談！

間に受けるんじゃないわよ!? なんで私が、あんたなんかで、オナニーしないといけないのよ……。……へ？ ち、違う。

あんたのことが嫌いとか、そういうのじゃなくて！

だから、そのつ……。……もういい！ ちんぽの準備ができるなら、

早く交尾しなさいよ！ こうしている間にも、

私たちの子宮は、きゅんきゅん疼いてるんだからつ……！」

ミリア「んふふつ♡ カリムったら、焦っちゃつて……♡

……なんだか、二人のやり取りを見ていたら、

ムラムラが酷いことになってしまいました♡

もう、服を脱いでしまいますから♡ そのおちんぽで、発情おまんこをホジホジして、降りきっている子宮口を、どちゅどちゅブチ抜いてくれませんか……？」

【二人が服を脱ぐSE】

カリム「じゃあ、私は、お姉ちゃんに正常位で挿入してあんたを、

この雌裸体で、上から押し潰してやるわよ♡

恥をかかせた恨みを、雌圧力で償わせてやるんだから……♡」

【ベッドの上で動く音】

(ミリアの位置)『では……』から、少し距離を離し、正面へ移動

ミリア 「あら……♥ 今日のカリムは、相当ムラついているみたいですね♥
もちろん、私もですが……♥ 強化された射精ビームで、
おまんこの奥を貫かれる快感♥ 早く味わいたいです♥
丸出しあっぱいに溺れながら、腰を振りたくって、
生のほかほかこつてりザーメンを、ぶちまけてくださいね♥
では……仰向けになります♥ いつでもどうぞ……?」

(カリムの位置…左耳セロ距離) 後ろから主人公に密着して

ミリアとのセックスを急かしているイメージ。

カリム「ほら早く……♥ 入れなさい♥ お姉ちゃんのおまんこ、
入り口が、くぱくぱあうって動いて、あんたのちんぽを誘つてるわよ?
腰振りの補助、してあげるから……♥ とつととぶち込んで、
体力全快金玉から、ザーメンぐぱぐぱ汲み上げるのっ♥」

32
〔んおつ♡〕で挿入音。〔……ほおおおおつ……♡〕に合わせ長めの挿入音
(ミリアの位置:正面ゼロ距離。)

ミリア 「あつ……んふふつ♥ あなたの素敵な顔面が、目の前に……♥
思わずしゃぶりつきたくなるような、整った造形♥
興奮した雄顔……あつ♥ もう入れるんですね？」
どうぞご自由に……んつ♥ ……んおつ♥ ……ほおおおおつ……♥」

カリム「ううわっ♥ 全身がビクビク震えちゃってるじゃない♥
お姉ちゃんの生まんこ、そんなに気持ち良い？ 密着してるから、
あんたが感じることなんて、バレバレなのよ……♥」

ミリア 「んふおつ……♡ ほおおつ……♡ やばつ♡ んおふつ♡
ふうううつ……♡ 根本まで……入りましたねつ……おほつ♡
あなたのちん先にぶつかつて いる、コリコリの穴……♡
おまんこの第二関門とも呼ばれていますが、それが子宮口です♡
ここに、金玉で煮詰めた、こゆううい雄汁を注ぎ込むと……♡
本来であれば、赤ちゃんがデキてしまい ます♡
今日は安全日なので、卵子はお留守ですが……。」

ミリア 「ガチのちんぽこで孕ませるようなつもりで、

おもつくそバカくっさいねばねば精液子種を、植え付けてくださいね♡」

【……おらっ♡】でピストン音】

カリム 「ちょっと♡ いつまで震えてんのよ♡

ちんぽ奥までハメ込んだだから、さっさとへコへコしなさい♡
せっかく射精力を高めてあげたのに、動かないんじや、

意味がないでしょ？ ……はあう。もういいわ♡

気持ち良すぎて動けないって言うなら、私が腰振りの補助をしてあげる♡
あんたは何もしなくていいわよ♡ こうやつて……おらっ♡

強制種付けパコパコで、あんたの雄脳みそに、
快樂の火傷を負わせてあげる……♡」

【(☆)の部分に合わせるようにピストン音】※編集用の(☆)はトラック末に別記載
ミリア 「おっぽっ♡ おつ♡ んうつ……♡ ヤバいですこれえつ♡
おほつ あなたとカリム、二人分の圧力がかかつてえ……
おひよつ 子宮口が、潰されてしましますううつ
んおつ♡ ほつ♡ ほおうおつ♡ あう うつ……♡」

カリム 「おらっ♡ もつと種付けに集中しなさいよつ♡

おんつ ふううつ♡ 高まつた射精力で、

お姉ちゃんの毒を一発消毒するような、粘っこい塊ザーメン♡
ぶりぶりしな……さいつ！

一番奥に、種をドバドバまき散らすつもりでつ♡
ふんつ♡ ぶびゅうぶびゅうつて♡ おらっ♡

種付けするイメージを持ちなさいよつ♡」

ミリア 「あつ♡ おつ♡ あへあうつ♡ んつ♡ !?

ちんぽの先端があ……♡ おほつ♡ 膨らんできました……♡
んおおおつ♡ 出ちゃうんですねつ♡ んおつ♡

生のブリブリこつてり受精催促クサマラ遺伝子スムージー♡
私の欲しがりおまんこの奥にいつ♡ おほつ？

ぶりゅぶりゅうつて長いうんちをひり出すみたいにいつ！
がはつ♡ おつ♡ 構いません♡ 構いませんよつ♡

ミリア 「赤ちゃんの小部屋は、準備オツケーです♥ あなたの子種を、全部まるごと受け止めて♥ うおやべ♥ ほつ♥ 精液貯蔵庫として利用します♥ ふほつ♥ その方があ……徐々に精液を吸収することができるのです♥ 持続性もあるつ……んうほつ♥ ことでしょうつ…… „♥ んうつ „♥」

【早めのピストン音開始。次の指定があるまで継続】

カリム 「おらつ♥ おらつ♥ おらあつ♥ パコパコの速度を速めるわよつ♥ 金玉の中で弾けそうな衝動を、一秒だって我慢させない♥ 見逃さないわつ♥ ふんつ♥ ふんつ♥ お姉ちゃんに種付けしなさい♥ おらつ♥ 絶対つ……絶対赤ちゃん産ませるつもりで射精するのよ？ 安全日を危険日に塗り替えちゃうくらい、こつてこての遺伝子残留延長性能クソ高ザーメンを出しなさいつ♥ うほうほ唸りながらつ♥ 獣になつたつもりでブチ込むのつ♥ お姉ちゃんの秘密の部屋につ♥ おらあああつ♥ 出せつ♥ 出せつ♥ ちんぱ出せつ♥ 射精しなさいつ♥ お姉ちゃんのまんこの収縮に合わせて出すのよつ！』

ミリア 「んお „おつ „♥ クるクルクるうつ♥ ザーメンマジでクるつ♥ んほつ „♥ おお、お願いましましゅつ♥ んほつ♥ おつ „♥ いつちばあくん奥が良いですうつ♥ ほおつ „♥ んつ „♥ んつ „♥ がはつ♥ ほおつ？ んふつ♥ 奥に奥に奥にいつ♥ 種付けぴゅつぴゅ、してくださいあ～いつ♥ おつ „♥ まんこやべつ♥ まんこトぶつ♥ トぶトぶトぶザーメンクるつ♥ んおつ „♥ ……ほおおおお „おつ „！」

【ピストン音停止。射精音開始】

ミリア 「あつ „！ ほつ „♥ んほおつ♥ ぴゅつぴゅ来たあ♥ おほつ♥ う „うつ！ あひよつ……♥ ほおつ „♥ ほおつ „……！ どふどふつてえ♥ 熱いのが来ちゃつてますうつ……おほつ♥ ん „気持ち良いつ♥

ミリア 「気持ち良～いっ！ むうっ！ あっ、ほつ……♥ うあ “勢いやばっ
んっ～！ ほほお……♥ ほお～……♥ どつ……ふうつ♥
生中出し、キくうつ……♥ 強化射精で……♥
まんこびちやびちやにされちゃいますう～……♥」

【射精音、徐々に少なめに。このセリフの最後で停止】

カリム 「おらつ……♥ 腰、止めんじやないわよ……♥
私の腰振りに合わせて、まだまだ出しなさい……♥
ぱんつ……ぱんつ……♥ びゅうつ♥ どうよ……♥
普段の射精とは、比べモノにならないくらい、
ぶつといザーメンが出たでしょ？
尿道を、むりゅむりゅうって強引に搔き分けながら、
孕ませ性能最高級のエロ精子を中出しする快感……♥
癖になつちやつたんじやないのぉ……？」

ミリア 「はあ、はあ……♥ ……素敵な射精でした♥
とても心が満たされたような気がします♥
やはり……症状を抑える効果も、強くなっているようです♥」

カリム 「じゃあ次は、私の番……♥ もうアソコが濡れすぎて、
辛抱たまらないのよ……♥ お姉ちゃん、早く代わって……♥」

【ペニスを抜くヌチュツとした音】
【ベッドの上で動く音】

(ミリアの位置..『あなたも……そうなのでは?』から右耳ゼロ距離囁き)
ミリア 「もう♥ カリムつたら♥ 大好きな人と、

エッチをしたくてたまらないんですね?
そんなに焦らなくたって、おちんちんはいなくならないのに♥
なんだか、我が妹ながら、世界一可愛いんじゃないかって
思えてきちゃいます♥ あなたも……そうなのでは?」

(カリムの位置..声が少し遠くなり右から正面へ。

『……早くして』で、主人公を抱き寄せて、正面ゼロ距離へ)

カリム「んえつ？ なに？ お姉ちゃん。なんか言った？」

……あんたも、何顔を赤らめてんのよ。今更照れることなんてある？
こつちはもう、おまんこぐじょぐじょで、
セックスのこと以外考えられない状況だつてのに、
なんかムカつくわね……♡ ……早くして。じゃないと、
こつちから襲い掛かつちゃうわよ？」

【『……えいっ♡』で、魔法をかけたとわかるようなSE】

ミリア「あらあら♡ カリムがせつかちさんなので……。

早めに、もう一回、回復魔法をかけてあげますね……？……えいっ♡】

【『……おっ♡』で挿入音。『んお～……♡』で長めの挿入音】

カリム「入れなさい……♡ 私のびちゃ濡れむわむわおまんこの中に♡
あんたのフル勃起強化ちんぽ……おっ♡ おおつ……？ んお～……♡」

カリム「やるつ、じゃない……♡ デカデカちんぽこ♡
おつ♡ でも……相変わらず、自分じゃ気持ち良すぎて、
動けないのね♡ んつ♡ みちみちに詰まつてる膣肉に溺れて、
快樂負けしちゃうちんぽとか、情けなくつて、
こつちまで恥ずかしくなつてくるわよ……♡」

【『……えいっ♡』でピストン音】

(主人公に後ろから抱き着いて、右耳に囁きかけて腰振りを補助するイメージ)

ミリア「今度は私が、腰へコを支援してあげますね？」

カリムほど力強くは振れませんが……♡

ふかふかのおまんこに、身をゆだねるようなつもりで、
優しいセックスをしましょう♡ 動きますよ？ ……えいっ♡」

【ややゆつたり目なピストン音。次の指定があるまで継続】

カリム「おつほつ♡……ふううつ♡

なかなかの……よわよわピストンねつ……♡ あふつ♡
こんなんじや、全然これっぽっちも感じないつ……あはんつ♡
けどつ……♡ おつ ♪ あんたの射精を盛り上げるためにつ……
くはつ♡ 喘いであげるわ……♡ おつ♡ ……おう♡」

ミリア「んふふつ……♡ カリムも、あなたも……♡

全身のビクビクが、とてつもないことになつていませんね♡
やつぱり、二人の方が、相性が良い……ということでしょうか……♡」

カリム「おつ、お姉ちゃん、さつきから、余計なこと言いすぎつ……

あふんつ♡ ほつ……らあつ♡

こいつのちんちん、なんだか異常に勃起してつ……くふあつ?

おお、う……♡ おまんこが、それに応えるみたいに……んつ♡

ギチギチに膣圧を高め上げちゃつてるわよおつ……♡

おふつ♡ おほお……♡ おう♡」

37

ミリア「あら? もう出ちゃいそんなんですか? ううん……♡
もう少し溜め込んだ方が、より効果のある精液が出そうですね……♡
……それつ♡」

【魔法をかけたことがわかるようなSE】
【ピストン音停止】

カリム「んえつ? おつ ♪ ! は?

お姉ちゃん、今、なにしつ……んおつ♡

こいつのちんぽ、急にビクビク震え出してつ……うわつ♡

バイブみたいい ……♡ うおお ♪ おほおう♡」

ミリア「んつふふふつ♡

ちょっと、イジワルな魔法をかけてみちゃいました♡

その名も……寸止め魔法です♡

陰茎が絶頂に達したことを察知すると、
精液が飛び出す前に封じ込めて、

金玉に快感のみを溜め込むようにする、雄精神搔き乱し魔法ですね♡」

カリム「なんでそんなこと……♥ んほつ♥ ちょっとあんたつ♥
大丈夫なの？ すつゞいキツそうな顔しながら、
涎垂らしてるけど……♥」

【『え～いえいっ♥』から、ゆつたり田のピストン音再開】

ミリア「金玉を、これまで経験したことのない快楽が襲っているので、
ちょっとびりしんどいかもしませんが、その分……
果てた時のアクメ感覚は、最高ですよ？」

頑張ってイけるように、腰を振ってください♥
……無理、ですか？ んふふ♥ 補助します♥
え～いえいっ♥ ぱくんぱんっ♥ ぱこんっ♥ ぱちゅうくんっ♥」

カリム「うおつ、ちよつとまつ、んん、これすぐつ、
おふつ、ビクビクちんぽがつ♥」

中つ、搔き乱してくるうつ、ゆっくりなのにい……♥
おほつ♥ おまんこぐちゃぐちゃにされてつ……どうはつ♥
変な声、止まらなくなるうつ♥ おつ、おつ♥」

ミリア「落ち着いて落ち着いて……♥」

……あつ♥ 今、また絶頂に達しようとしましたね？」

残念でした……♥ 金玉快楽貯金です♥

あなたの全力オーガズムは、全てこのぶりぶりの金玉に
閉じ込められてしまいます♥ 必死に汗をかきながら、
カリムのふわふわもちもちおまんこを突いて、

快感をひたすらにチャージしましょうね～……♥」

（『……ちゅっ♥』からはキスをしている。文字の後の()の中は、本来のセリフ）

カリム「んはつ♥ ふおつ♥ おお、うつ♥ ……んはつ？ なによお♥
口、パクパクしてえ……おつほつ♥ 気持ち良すぎて、
上手く呼吸ができないの？ しようがないわね……♥
……ちゅっ♥ ぶちゅっ♥ ちゅうつ♥ わらしがつ♥（私がつ）
……んちゅっ♥ きしゅしへつ……♥（キスしてつ）
こひゅくのれつらいをつ……♥（呼吸の手伝いをつ）

カリム「しゃべっ(してっ)……んちゅちゅっ♥　んはっ♥　ちゅくつ♥
……してあげるっ、わよっ……♥
ありがたいと思いなさいよねっ♥　ちゅくつ♥　ぶちゅつ♥
ちゅつ♥　ちゅつ♥　んまつ♥　まつ♥　ちゅくつ♥」

ミリア「んふふっ♥　カリムつたら♥」

自分が夢中になつてゐるぢやないですか♥
柔らか唇と、混ざり合うみたいにキスしながら、
ふかふかのおまんこお布団に、ちんぽを出し入れするのつて……
最高ですよね♥　あなたのが大好きなおまんこですから、
絶対に快感から逃がしてくれません♥

ツブツブでコリコリのヒダたちが、ぎゅっとおちんぽを抱き締めて、
射精を促すんです♥　具体的に膣の中身を想像して、
もつともうと濃ゆい精液を作りましょうね♥」

(以降のカリムはより出来る限り甘々な雰囲氣で)

カリム「んちゅつ♥　ちゅちゅぷつ♥　はあ♥　はあ♥
……好きつ♥　好きいつ♥　ちんぽ好きつ♥
あつ、あんたのこともつ……しゅきつ♥　んちゅつ♥
好きつ♥　ちゅちゅちゅくつ……ぷはつ♥」

ミリア「あら……？　カリム、今あなた、彼のことを、好きって……？」

カリム「ふえつ？　……つ！　ちつ、違うつ！　今のはそのつ、えつと……！
こいつが、苦しそうだつたから、癒すために、仕方なく……。
……はあ。もういいわ。認めるわよ。私はあんたのが好き♥
大好き♥　今すぐにでも赤ちゃんを授かって、
幸せな家庭を築き上げたいくらい好き♥　でも……恥ずかしくて、
本心はなかなか伝えられなかつたの♥　ずっと前から、
あんたをオカズにオナニーをしまくるくらい、繁殖欲求ムラムラの、
ガチ恋雌だつたし……♥　怪物の仕業とはいえ、
こんな関係になれたことは、とつても好都合つていうか……♥
……ああもう♥　いいでしょ？　とにかく好きなの♥
認めたんだから、寸止めパコパコセックス、頑張りなさいよっ♥」

ミリア 「きやうつ♡ とうとう伝えてしましたね♡ カリム♡

って……うはっ♡ すごい♡ さっきから、絶頂に何度も達しています♡
背筋がゾクゾクとして、脳みそがジュワジュワとトロけるような、
射精前のあのどうしようもない刹那的な快感が、

連續で襲い掛かってきて、呼吸が荒くなっていますね♡
でも……いけないんです♡ あとちょっとのところで、
快感が金玉に移動します♡ もう爆発しちゃいそうでしょう?
大好きなカリムに種付けすることだけしか、
考えられなくなってしまいますよね……♡」

（カリムの位置：『んつ……♡』からは、左耳ゼロ距離。）

カリム 「あんた、大丈夫なの？ ……は？ すっ、好きって♡
やめなさいよ♡ 目を見ながら言わないでっ♡
いや……恥ずかしい♡ うつ♡ おほっ♡ やばいやばい快感が……
おつほうつ♡ ダメ♡ あんたの顔見れない♡ んつ……♡
悪いけど♡ 強引に近づかせてもらつたわ♡
両耳囁きでっ♡ うほっ♡ 厳しいセックスを耐え抜きなさいっ♡」

40

ミリア 「そろそろ限界ですか？ んふふつ♡ ジャあ解禁しましょうか……♡
溜めに溜めた、エロエロこつてり種ザーメン♡
あなたの遺伝子がたっぷりと詰まつた、卵子ぶち抜きおしつこ♡
たんぱく質の塊を、一生懸命ちんこ穴からひり出さんですよ？
カリムのお腹をふつくらさせる妄想をしながら、
着床期待本気生射精♡ お願いします♡」

カリム 「おつ♡ おうおつ♡ なにつ、よおつ♡
いかせてもらえるってわかつた途端♡ おほっ♡
自分でも腰振り始めちゃつてええつ……んつ♡ 生意気ちんぱつ♡
大好きっ♡ 許さないっ♡
絶対に頭がおかしくなるくらい搾り取つてやるつ♡
こつちも焦らされて、さつきから脳内の火花が
バチバチに散りまくつてんのよつ♡ うつ、♡
確実にヤバイアクメに到達するわつ♡ ねえ一緒に動物になるわよ?
獣になるのつ♡ いいつ!? おつ、♡ んほつ、♡ おつ、♡

カリム「おつ
おつ
好きつ
結婚
結婚するつ

いつか赤ちゃん産むつ
♥

あんたに似た可愛い男の子を産み散らかしてやるつ♥

んうほつ
うほつ
おつ
おおつ

カリム「おつ  イきゅつ  イつてつ  お願いつ  好きつ  」

好きでとろとろ種汁栄養トリんぐ寄越しなさい<3
おほき

一
發
生
八
不
一
心
人
是
之
故
之
一
一
一

卷之三

イつてください♥ ああくん出ちゃいますね♥

どうぞつ♥ イくうんつ♥

【このセリフは二人同時再生】

41

カリム「おほつ　♥　おつほお　ゞつ♥　出てつ……るうつ♥
んあごつ　♥　ぼほつ……♥　ほおおお　。。♥
おつ　♥　。。おつ　♥　う　ゞつ♥　ああゝ……産みたいいゝ♥
精液つ、ダマになつてるうつ　ゞ……♥　んほつ……♥
ほげあ……♥　卵子よりデカい精子い……♥
来ちやつてるのおつ……おつほつ♥　妊娠したくなるうつ……♥
子種もつと寄越せつ……寄越せえつ……おつほつ♥
おうゝ……♥　おゝ……♥　んおゝ……つ♥」

ミリア 「びゅつ♥ びゅるるるう～つ♥ どぱどぱつ♥ どぱどぱつ♥
ぶちちちちい～～～びゅ～～～つ♥ 出ます♥ まだ出るつ♥
ぶりぶりぶりい～つ♥ ～～～どぽつ♥ ぼびゅつ♥
ぶびびびい～つ♥ ぶびびびい～つ♥ ぶりゅりゅう～つ♥
射精音、すつごつ……♥ びゅうびゅう♥ びゅうびゅう♥
頭ちんぽこ射精……♥ どぱびゅりつ♥ びゅくくつ♥
びゅつ……びゅう～つ♥ どぴゅどぴゅどぴゅう～つ……♥」

カリム「んっは……おっ ♡ ちょっともう……♡ なんなのよ♡
この量は……♡ あんた、種馬にでもなったつもりい……?
いくら溜め込んだって、こんなに子宮に入らないわよつ……
おつほつ♡ 後先のこと考えない射精……♡
……ますます好きになっちゃうじゃない……♡」

ミリア「あら……♡ どうやら、出し疲れて、
眠つてしまつたようですね……♡ このまま私たちも、
ひと眠りしましょうか……♡」

カリム「はあ……♡ 可愛い寝顔しやがつて……ムカつくわねつ♡
起きたら、バチボコに犯し倒してやるんだから♡ 覚悟しなさい……♡」

(トラック5 END)

■トラック6『バレたら終了！屋間の商店街で透明化露出オナニー』

（カリム初期位置：右耳近め。主人公の腕を抱き締めているイメージ。）
（ミリア初期位置：左耳近め。主人公の腕を抱き締めているイメージ。）

カリム「はあ……。全く。一時はどうなるかと思ったわよ」

ミリア「性欲を高める毒なんて、聞いたことありませんでしたからね。これからは、注意が必要かもしません」

カリム「そうね……。……え？　なによ。……は？　距離が近い？　あんたねえ……。私たちは、そのつ……。すつ、好き同士なんだから、密着するのが当たり前でしょ？」

ミリア「んふふつ♡　毒が抜けても、結局は私たち、前よりもベタベタのままみたいですね♡　私は、結構前からそうでしたけど……。カリムは、ようやく堂々とイチャイチャできるようになって、良かつたんじゃないですか？」

カリム「それは……。……そうよ。そうに決まってるわ。

私だって、あんたと毎日イチャついたり、えつ……エッチなことも、しまくりたかったわよ！　お姉ちゃんばっかり、隙あらばベタベタして……。羨ましかったわ。

これからは、今までできなかつた分、

私ともイチヤついてもらうんだから、覚悟しなさいよ？」

ミリア「もちろんエッチも……ね？　あなたを取り合ふみたいに、毎日ぱこぱことヤリまくる予定です♡　んふふつ♡　ちょっと下品な表現でした♡　でも……ごめんなさい♡　言葉を選ぶ余裕が無いくらい、ムラムラが酷くつて……♡　一度解放してしまった分、我慢が効かなくなっているみたいですね♡」

【ズボン越しに股間を擦るような音】

カリム「あつ、もうお姉ちゃんつ。

こいつのちんぽは、私のモノなのに……！
勝手にサワサワしないでよっ」

ミリア「いいえ♡ 彼のちんぽは、私たち二人のモノです♡
一緒に愛しあって、幸せラブライチャ3Pライフを
送りましょう？ その方が……あなたも、嬉しいですよね？」

カリム「ちょっと！ 何頷いてんのよ！ ……はあ。もういいわ。
お姉ちゃんなんて気にならなくなるくらい、本気の搾精で、
金玉しなしなにしてやるんだから♡ 言つておくけど、
遠慮なんてしないわよ？ 私のフェロモンが、
こべりついて取れなくなるくらい、毎日犯してやる……♡」

(左耳ゼロ距離に囁き)

ミリア「んふふつ♡ 魔法で金玉を回復させれば、
エッチし放題ですからね……♡ 早速ですが、
今日は怪物の反応もありませんし、朝から暇……ということでおっ
しちゃいましょうか♡」

(右耳ゼロ距離に囁き)

カリム「気絶したって、失禁したって、泣きじゃくったって、
腰を止めてやらないわ♡ 私に惚れられたことを、
幸せに思いながら、射精しなさいよね……♡」